

		あなたの あな	カナミ油症事件のこと	「母と子の絆〜カナミ油症の真実」をご覧になった感想はいかがでしたでしょうか？	「母と子の絆〜カナミ油症の真実」制作委員会に聞きたいこと、質問、意見がございましたら、お書きください。	映画をご覧になった感想として、記載いただいた内容をホームページで紹介させていただければと考えております。紹介させていただきますことにご同意いただけますか？尚、紹介させていただく際個人の特定ができないよう匿名で記載させていただきます。
女性	20	知らなかった	国が認めて保証してくれないことが一番の問題であると感じた。	特になし	同意する	
女性	20	知らなかった	普段何気なく食べていた油に毒が入っており、それが自身の子供にも大きな影響を与えてしまっているという事実が母親にとって非常に辛いことである。防ぎようもないので無念でしかない。		同意する	
女性	24	知らなかった	こなにも症状が病気のなにも、国からのサポートが手薄さにと感じた。また、自分にも起こりうると考えたら、とても怖く感じると同時に、どういった被害者になることを防げるのかが分からず考えてみたいと感じた。		同意する	
男性	20	知らなかった	なぜ食中毒が起こった際のマニュアルから逸脱した行為をするのか、強い疑問が残った。	特にありません。	同意する	
女性	20	知らなかった	辛い思いをしているのに、それを国から認めてもらえないという苦しみを感じ取った。 市販の油に毒性物質が含まれていたということ、とても恐怖を感じた。		同意する	
男性	21	知らなかった	自分の子供に知らぬまかサナミ油を与えてしまっていた親の気持ちを考えるととてもいたたまれない。自分自身の生活の場でも同様なことが起こりうるが、それを公害として認められなかった場合にそのやりきれない気持ちをどのようにすればいいのだろうか。		同意する	
男性	20	知らなかった	悲しい現実があると感じました。やりきれない思いを感じました。		同意する	
男性	19	知らなかった	知らない間に口にしたものに、体に悪影響を及ぼし、体調が悪くなっていってしまうことにとっても怖さを感じた。また、それを子供にあげてしまい、被害が出た時の親の気持ちとしてとても辛いものがあると感じた。		同意する	
男性	21	知らなかった	過大で大きな被害を食んだ後のケアを怠った上に会社の名前を変えて今も営業を続けているというのは不思議だと思った。許されずまでではないはずで、食品衛生法の適用内外の判別は難しかったのかもしれない。		同意する	
女性	20	知っていた	カナミ油症が産婦人科にまで影響を及ぼし、今の命を懸けて産んだ子どもが生まれてしまったことにも驚きました。		同意する	
女性	20	知っていた	食品衛生法が適応されず、今も苦しんでいる人がいるということに胸が痛く感じた。当事者の方の思いを、苦しみを、1人でも多くの人に知ってもらいたい。カナミ油症事件のことを風化させてはならないと思った。		同意する	
女性	18	知らなかった	今回この映画を見て、自分自身だけでなく自分が産んだ子供にも同じ症状が起きる辛さというものを少しわかったような気がします。		同意する	
女性	19	知らなかった	色々政府の対応に謎が残っている話だった。初めてカナミ油症という言葉聞いたが、腹痛や頭痛、倦怠感など数値には現れにくい症状が出てくるというのが難しかった。定量的なデータではないが、ある日突然有害であると判明したら、大きなショックを受けたと感じた。被害者の方が何も悪くない、対策することまでできないのがもどかしかった。		同意する	
男性	20	知っていた	このような公害に関しては、自分には縁遠い存在だと感じていたが、かなり身近にある問題なのだと感じた。		同意する	
男性	18	知らなかった	国の支援が行き届いていないことがわかった。細部にまで国としての支援を行わなくてはならないと改めて感じた。何も知らずに食べてしまったことの苦しみを想像を絶するが、できる限り追加した支援が必要だと感じた。		同意する	
女性	19	知っていた	産後や脱毛など目に見えるような症状が出てしまうのはとても辛いことだと思った。定期的に検診を受けていたリアルに症状が出たりしているのにもかかわらず、9割以上の人がカナミ油症だと認定されず、十分な補償を受けられていないという点に驚いた。		同意する	
男性	19	知らなかった	こんな形で公害被害が起きていたことを知らなかった。油という普通の食卓に出くるものが健康被害の原因となっていたことはとても恐ろしいと感じた。	特になし	同意する	
女性	32	知っていた	医師や病院側、政府側の話も聞きたいと思いました。		同意する	
女性	32	知らなかった	表舞台には出てこなくても、食品衛生法が正しく適用されず、多大な被害を受けた方が報われない事実を知り、驚いた。自身が医師になった際は正しい情報や診断を行うために自分の頭で社会のことを知っていかなければならないと思った。		同意する	
女性	21	知らなかった	食品衛生法に基づき適切な対応をすれば、被害にあい苦しんでいる方々を減らせるはずなのに、今なおそのような状況にならず、その事件について時で解決しようとしているような姿勢は問題があると思った。	特にないです。	同意する	
女性	19	知らなかった	四六八毒はよく知られているが、カナミ油症の被害については全くの無知だった。カナミ油症の被害者のように、声をあげ続けていくにもかかわらず、その思いが届かず苦しんでいる人々がいるのだと想像したら大変胸が痛んだ。		同意する	
男性	23	知らなかった	安全だと考えて食べていた食品のせいで食中毒になり、また自分の子供にも影響を与えてしまった。この時の母親の心は想像もつかない。そして今もそのせいで苦しんでいる。ただその苦しみを世に伝えるために活動をして声をあげている点が尊敬できる。		同意する	
男性	20	知っていた	患者のご家族が気がめううちに、自身の家族を被害にあわせてしまったことは非常に心苦しく感じた。また、母体から胎児への影響だけでなく、男性の精子からも胎児に影響を大きく受ける可能性があるとかわり、医学的な面でも、新しい知識を得ることができた。		同意する	
男性	20	知らなかった	カナミ油症事件のことでは知らなかったのですがそのような事件があったということを知り驚いた。長い間被害者の方にきちんとした説明がなされていないということはとても悲しいことだと思う。被害者の方が元気にうちに、少しでも早く帰郷のいく説明がなされることを願いたい。		同意する	
男性	18	知っていた	食衛生法を適正せず食中毒として認めることなく、大学に研究を依頼して診断基準を作らせて被害をあまねく受け入れずに拒み続けるのはあまりにも無責任で卑劣だと感じた。	素晴らしい試みだと思います。素晴らしい映画をありがとうございます。	同意する	
男性	20	知らなかった	ただ普通の暮らしをしていただけたのに、油という日常によくあるものでも、その後の生活が一変してしましたこと。また、それについてなんの補償もなく、やらせない思いだけが募っていくことについて、本当に辛い思いをされているのだと感じた。		同意する	
男性	19	知らなかった	カナミ油症というものを知らなくて、この映像を見て、その真実を知ることができた。カナミ油を摂取した人だけに害しかるのではなく、それが子供にも被害があることがとても辛いと思った。そして、カナミ油症の方の偏見があったり、被害を受けた男性からその娘にも被害があったりと悲劇的なものだと感じた。		同意する	
男性	20	知らなかった	ただ売られている食品を口にしたただなのに多大な被害を受け、さらにはそれが食中毒認定されずに放置されていたという事実を知り、やるせない気持ちになった。	特になし。	同意する	
男性	21	知らなかった	大学などの本来公正に調査などをを行う機関も基準を変えたしていないことにより不信感を感じた。	カナミ油症のことを知らなかったので、大変勉強になった。	同意する	
男性	20	知らなかった	被害者の方々の訴えが国や大学に届いていない現状に衝撃を覚えました。	なぜ、食品衛生法の適用に至らなかったのか、誰にメリットがあったのか気になりました。	同意する	
男性	21	知らなかった	直接油を口しなくても次世代の子供に影響が出てしまうのはとても怖いし他人事ではないと感じた。この問題をあやふやにしてしまうのではなく、自分たちから問題提起し続けることが大切であると思う。		同意する	
男性	20	知らなかった	普段何気なく買ってきた油のせいでこれほどの被害を受けるという恐ろしい現実を知ることができた。また、その後カナミ油を製造した会社がまた被害されていることを知り驚きを感じた。私は償われなければならない責任はとるべきだと思う。		同意する	
男性	20	知らなかった	カナミ油症については、この映画を見るまで知らなかったが、自分の家族に同じことが起こったと考えたときとても悲しい事件だと理解することができた。まずは、カナミ油症で被害者の方全員が補償されることが重要だと思ひ、また、同じような事件が起きないようにするには何が必要か考えるべきだった。	特になし	同意する	
男性	20	知っていた	被害を被っているはずなのに認定されていない人がいるという事実とその原因を知ることが出来、非常に勉強になった。		同意する	
男性	18	知らなかった	3大公害病が知名度としては高い中、こうした悲惨な事件が過去起こっていたことを初めて知ることができた。こうした公害病は突然起こって起きるものかも知れないと思う感じが得られ、いつ自分が他人事でなく自分の家族に被害を被るのではないかと恐怖を感じた。しかし、それを感じたからこそ、カナミ油症の被害者の救済が十分になされていないことに対し、問題であり解決すべきであると本気で考えることができたのだと思う。		同意する	
男性	20	知らなかった	ここまで重大な被害が出ているのに聞かず、ただたか数に被害者認定がされていないことに驚いた。カナミ油症は、その中の多くは産後として発生しているから自分自身に起こることと捉えられた。		同意する	
女性	20	知らなかった	自分が知らないで、毒物を食べて、それが子供の、孫の代まで影響することの恐ろしさを知った。食品衛生法という法律があったのに、それに反する被害者認定も全く進んでいないことで、今でも多くの人が苦しんでいることを知らない人は多いと思う。もっとカナミ油症に対する認知度をあげること、政府が被害者救済に前向きに取り組む動機を生やすことができれば良いと思う。		同意する	
女性	19	知らなかった	普段食べているものによって、気づかないうちに生きていることを奪われることに衝撃を受けた。被害は、身体的なものだけでなく、精神的、家族の関係や社会的立場、子孫などにまで及ぶ、この現象が身近であり、生じる可能性も高いことと恐怖を感じた。		同意する	
女性	19	知っていた	昔のことだと軽く見ているが、自分の身の回りにも起こりうる問題だと思う。食べているものが実は毒で、子供にも伝染して、対処法も分からないというのは恐ろしいのである。	被害者に適切な対応はされたのか	同意する	
男性	20	知らなかった	予期せず病気を発症してしまったことで、人生が変わってしまうことにも恐怖を感じた。自分にも起こり得ると思う。防ぎようがないため、とても怖いなと思った。		同意する	
男性	21	知らなかった	今回の動画を見て初めてこのようなことがあったということを知った。なぜ被害にあった方達が認定を受けることができないのか、事件発生直時に食品衛生法は適用されなかったのか、この動画を少しの間見ただけで怖さを感じたほどであった。また、私の母は1970年ごろに北九州市の小倉で生まれた。もし、私の祖母がカナミ油を食べていたと考えると、背景が凍るような思いである。被害にあった方達がただ運が悪かったと済むような規模の話ではない、しっかりと国が救済するべきではないかと心の底から感じた。そして、被害に遭われた方達が社会に向けて発信できる場を設けるべきだとも感じた。		同意する	
男性	19	知っていた	カナミ油症事件のことは何となく知っていたが、どういものなのかは具体的なより分かっていなかった。国や大学がきちんとした対策を取ってくれなかったことや、食中毒として扱ってほしいことに関してなぜだろうと素直に思った。それが自分たちにもいつでも起こりうるのだと思うと怖く感じるとし、知らないことに関して自分たちの無力さを知った。		同意する	
女性	18	知らなかった	まだ今も大学の研究班がつくった基準が緩められておらず、被害と未認定に苦しむ方が多くいることに怒りを感じた。自分が知らなかったことに恥ずかしい気持ちを感じたとともに、まずは知ることが大切だと思った。		同意する	
男性	20	知らなかった	ただご飯を食べただけなのに聞かず、カナミ油を接種したことにより、一生付きまとう代償になり、それが自分自身だけでなく子供にまでも受け継がれていくことの恐ろしさを知った。また母親からしたら、自分のせいで子供に影響を与えてしまったことに深い責任感をもってしまっただろう。しかし、油を接種しただけであるので、自分を責めようにも納得できず、またカナミ油の被害者であることも認めて貰えないのは母親連にとっては辛いことであつただろう。		同意する	
女性	19	知らなかった	カナミ油について初めて知り、知らないところでこんなことが起きていることに驚いた。		同意する	
女性	18	知らなかった	「悪いものが入っていると分かったら買わない」や「母は愛情を込めて料理を作った振舞っていたつもりが、知らぬ間に毒(カナミ油)を食べさせていたのだ」という被害者の方々の言葉が強く印象に残った。消費者は全く悪くないにも関わらず「食中毒」として適切に対応されていない事に憤りを感じた。九州大学の油症研究班の設立については、裏で国や政府からの働きかけがあったのでは無いかと考えてしまった。		同意する	
男性	20	知っていた	昔の事件だと思っていたので、カナミ油症被害者として認められたのが令和3年と書いてあったのが驚きだった。また、カナミ油を食べた人の子供や孫にまで被害が広がっているということから、この問題は現在進行系で続いているものなのだと認識した。		同意する	
男性	19	知らなかった	あそこまで被害のあるカナミ油症の事件を今まで知らなかったことが信じられない。四大公害病が日本史の教科書で扱われているように、多くの人に知らずと被害者になること、同じ過ちを繰り返さず、被害に遭われた方を守るために、カナミ油症の存在を伝えていくことが必要であると考えられた。		同意する	
女性	19	知っていた	私は今年に入ってからテレビでカナミ油症のことを知った。テレビを見た当時は自分とは無縁な世界で起こっていることだと感じました。しかし、自分も当時九州にいたら何も知らずに油を摂取し、二世に及ぶような環境であったこととをこの映画を見て知った。そして、国がなぜ今になるまで対応をしていないのか疑問に思った。過去に起きたイタイイタイ病や水俣病などの公害の教訓を何の用か思い出せないように思える。	カナミ油症の発生から50年経ったこのタイミングで映画を制作しようと思った意図を知りたいです。	同意する	
男性	20	知らなかった	被害を受けた方々にはたくさんいるのに、認定基準が曖昧で食中毒としても扱われなかったために国が保障を何もしてくれないというのはとても悲しいお話であると思った。なぜ勝手に判断基準を作ろうとしたのかはとても疑問である。判断基準について考える時にこのような結果が起こる可能性があることを考えなかったのだろうか。		同意する	
女性	20	知らなかった	出産時に子供にも影響が出て、今でも症状に苦しんでいる方々がいることを知り、もっとカナミ油症について広く知ってもらうことが必要であると感じた。また、症状が出ていて訴えている人全体の6.2%しか正式にカナミ油症である認定されておらず、現在も戦っている人たちがいること、そしてその人たちの想いを伝えることができた。		同意する	

男性	19	知らなかった	カナミ油に毒性があることは、売った人も買った人も誰も知らずに使用してしまい、大問題になってしまった。そして、その被害にあった人は現在も多く存在しており、子孫にまで症状が出てしまっている。政府はこの現状をもっと重く捉めて、カナミ油症についての研究を進め、しっかり被害者認定できるようにしなければいけないと思う。	同意する
男性	19	知っていた	企業と行政の不十分な対応が印象的だった。油を摂取した本人だけでなくその子供達まで苦しむことに恐ろしさを感じた。環境や食品安全への意識を高める重要性を訴えているように思えた。	同意する
男性	19	知らなかった	こんなことが起こっていたことを知らなかった。自分の身にも起こりうることなので怖いと思った。	同意する
男性	19	知らなかった	たまたま1日前の日常の中でご飯を食べただけで、そこに入っていたカナミ油が原因で健康被害を受けてしまう。日常に潜み隠るしさを知った。また正直消費者側は避けるようがないと思った。	同意する
男性	20	知っていた	カナミ油症患者さんたちの悲しみを痛感した。「毒とかわかっていれば買わなかった」という話が「毒かどうか分からないから」と断る上では無いと思う。そう感じる。	同意する
回答した	22	知っていた	漁業に生じた事例について、その原因を遡って因果関係を明らかにすることは時に容易でないことは承知しているが、それ故に補償が行われない。漁業に対してやるせなさを覚えた。	同意する
男性	19	知らなかった	子供の頃に毒から食べさせてもらっていたもののせいで病気になってしまった人は、怒りの向け先を失っていて、非常に辛そうに見えた。国がきちんとしかるべき対応をいち早く行う必要があるように強く感じた。	同意する
女性	20	知らなかった	子どもに影響があるため、カナミ油症となった母親の立場を考えると、本当に苦しく胸が痛くなった。自分だけでなく大切な子どもも苦しめてしまうため、恐ろしい公害であると思った。カナミ油症はこれまで知らなかったが、誰にでも起こりえることだと感じた。ダイオキシンが含まれていると知らずに食べたことで、何十年にもわたって被害が生じるのは本当に苦しいことである。食中毒として扱い、適切な対応をすることで被害を減らすことができたろう。	同意する
男性	21	知らなかった	自分が普段食べている何気ないものに毒性の化学物質が入っており2世代にもわたって影響するなんて怖いと思った。水俣病は聞いたことがあるが、カナミ油症については聞いたことがなく、その違いについても政府の対応が大きく関係しているのではないかと感じた。	同意する
男性	20	知らなかった	日常でよく使う油の中に毒が混入していたことは非常に問題である。また、その被害が自分だけでなくまわす家族や新しく生まれる子供にも害を与えていたということは、とても残酷なことだと思う。本当の今での救済にはやはり不可能かもしれないが、せめて油症被害認定がきちんとなされることを願う。	同意する
女性	19	知っていた	カナミ油症のことは知っていたが、政府や大学の対応がよくなかったことで被害が拡大したことは知らなかった。これは今後教訓として生かすべきだと感じた。また、家族に知らないうちに毒を食べさせてしまった母親の気持ちも考えると、やりきれないのがあると感じた。被害者は知らないうちに毒を摂取させられ、それによる被害があるのに被害者認定されない状況があると知って驚いた。	同意する
男性	22	知らなかった	わずか半世紀前の日本でこんなに恐ろしい事件が起こっていた事を知り非常に驚いた。日常で使う油に有害物質が本人たちの知らない間に含まれており、日常が一変してしまったことに恐怖を感じた。また、カナミ油症の対応が食品衛生法に則って行われなかったことの真相をしっかりと究明する必要があると感じた。	同意する
回答した	22	知っていた	食品衛生法は適応されず、独自の診断基準で被害者の認定が行われていたことに驚いた。被害から時間が経っても、健康被害のある2世、3世が生まれているだけでなく、亡くなった方のためにも正しい基準での認定が必要だとわかった。化学物質は生活に必要なため、今後も似た事件は防ぎ切れないかもしれない。国の対応方針、適応する法律の明確化が必要だと思った。	同意する
男性	19	知らなかった	カナミ油症は今まで学校で習ってきた四大公害病とは違う症例だったが、こゝまで被害の大きい事件だったことに驚いた。またこの事件が将来的に世に伝わり知られていくことは驚いた。水俣病の教訓をもとに適切な対応が行われていれば今日まで苦しむ被害者はいなかっただろう。公害はもちろん事前に防ぐことが重要だが、起こった後の対応も重要であると認識できた。	同意する
男性	19	知らなかった	カナミ油症のこゝやについて初めて知った。自分の知らないところで苦しんでいる人がいるのに、自分は何もできていないというように悔いを感じた。まずは、カナミ油症について理解して、被害者の方々がどんな気持ちであるかを理解することが大切だと感じた。結婚の話が出てきた時に、差別や偏見の言葉を浴びせられたというのを知った。そのようなことが起こったのは、被害者側のことについてよくわからない人がいたためであらう。ゆえに我々はずはカナミ油症のことについて知るこゝから始めるべきだと考えた。	同意する
男性	19	知らなかった	故意に毒物を混入してしまったのではないのに、被害者となった方々が差別や批判を受け、まともな補償を受けられなかった事情に残酷だと感じた。	同意する
女性	19	知っていた	食品衛生法が適応されなかったのは大学が研究チームを作ったことが原因なのか、そうであるとしたらなぜ大学の研究チームに被害者を決定する権力があつたのか気になった。	同意する
男性	19	知らなかった	被害者や子どもが世代を超えて伝わりつつあることを知り、公害被害者やその家族に対するケアや補償を社会全体で行っていかねばならないと感じた。	同意する
女性	20	知らなかった	政府の処置が適切になされたことにより、治療を十分に受けることができなかった人々が大勢いることを知った。また、悔しさを残したままなくなっていく人々、何も言えずに今も症状と戦っている人がいると思うと心が痛んだ。当時カナミ油症に関わった方々は、おそらく一生懸命にカナミ油症と向き合っていたのだと思う。しかし、それが本当にカナミ油症の被害に合わせた方々の身体的な、そして精神的な支えとれているのかもしれないことが必要だったように感じた。	同意する
男性	19	知らなかった	水俣病などの他の公害病は養育教育期間に習ったので知っていたが、カナミ油症と同じ深刻な健康被害をもたらしたのに、まるで隠蔽されていたみたいで知らなかった。いつもの生活をしていて悪いことをしたわけではないのに健康被害を受けてそのことを認めてもらえなくて言葉にできないほど辛かった。	同意する
男性	19	知らなかった	国の無責任さに憤りを感じた。また食品を扱う企業には、化学薬品の扱いにぜひ注意して欲しいと思う。そして被害者の人にも健康被害を回復することを望む。	同意する
男性	21	知らなかった	高校や中学での社会科授業で様々な公害・健康問題について学んでいたが、まだ国に十分に保証されていない病気があるのだなと驚いた。またその症状が子供にも出てしまうことがこの病気の残酷なところであると思う。何も知らない子供に将来症状が出たらと思うと親として心配が尽きないと思った。	同意する
男性	19	知らなかった	何とも知らずに食べたものから、深刻な被害が生まれ、今もおお苦しんでいる人達がいるということに心を痛めた。何世代にも渡って影響が出ているのにもかかわらず、認定者があまりにも少ないことが重大な問題であると思った。これから私も起こり得る事象であるので、国としての対応が改善されることを願う。	同意する
女性	22	知らなかった	カナミ油症について初めて知った。関係があるのは明確なのに、認定された人が6.2%しかないことが衝撃的だった。普段何気なく食べているものにも危険が潜んでいる可能性があるのだと思っ	同意する
男性	19	知らなかった	国を代表する政治家などが選挙や災害時などで国民の命を守ると誓っているにもかかわらず、見てみぬふりをしてしまう現状、問題があることに落胆した。	同意する
男性	20	知らなかった	カナミ油症のように公害としてあるものが、国の適切な保障を受けることなく今も苦しんでいることに悲しみを感じた。さらに、世代を超えた影響がわわっている中、保障を受けることができないやせなさを感じた。私たちが、普段平気だと感じる食べ物や着て体内に入る恐れを抱えなくてはならないということも学ぶことができた。	同意する
男性	20	知らなかった	被害者の方々やその周りの方々にとっても壮絶な経験であつたと思うが、もしかしたらこのようなことが自分に起こるかもしれないというのを思うと、とても考えさせられた。またカナミ油症の症状に苦しむのは仕方のない部分もあるが、カナミ油症の人に対する偏見によって苦しんでしまうのは良くないし防げるところでもあると思うため、自分も病気に対して正確な知識を得るようにしてそのような偏見を無くせようとした。	同意する
男性	19	知らなかった	私はカナミ油症の存在を知らなかったが、この映像を見て、カナミ油の被害者の方が相当な苦勞をしていたということが確切に伝った。自身が家族に美味しいと思って飲んでいた料理が、実質的に家族に毒を与えてしまっていたという気の毒な出来事が起こってしまった。また、カナミ油を摂取したため、自身の子供に母乳を与えることができないなど多くの苦しみを味わっていたと知り、このようなことが起こらないようにするべきであると強く思う。	同意する
男性	20	知らなかった	カナミ油症事件についてこれまで全く知らなかったので、こういった事件というのは自分が知らないだけで数多く存在しているのだらうと思った。食料品に毒物が混入してしまうことは今でもあるため、その問題を完璧に改善するのはなかなか難しいだろう。だからこそ、事故が起きてしまった後はどう対処していくかというのはしっかりと力を入れるべきであると実感した。	同意する
男性	19	知らなかった	カナミ油症という語そのものは聞いたことがあったが、詳細な事件等は知らず、このドラマにて衝撃を受けた。日本政府がなかなかカナミ油症を認めず被害者の認定が進んでいない状況はほかの病気においてもよく聞く話であり、法にのっとり切れないのは、立法の役目も果たさず国民に悪い印象を与えていると内閣が、こゝでは国会と内閣が非常に近いという点で書かなくてはならない」としてはいるが、公害問題があるのではないだろうか、と感じた。	同意する
男性	19	知らなかった	カナミ油症にしかつたということだけで差別や偏見の被害にあり現実を変える必要があったと思つた。食中毒として認定され、このことに関する深い理解が多くの人のために広まり、共有されることで、被害に遭われた方のお気持ちが少しでも和らぐのではないかと思つた。	同意する
女性	21	知らなかった	カナミ油症の被害を受けた親から、子供にも影響があるという点で、この食中毒事件を非常に多くの悲しみを招くものとなっている要因だと感じた。子供にも影響があると分れば、婚姻の上での差別をうみ、さらには被害者の人々が子供が苦しむ姿を見るたびに、負う必要のない罪悪感に苛まれ続けることとなることは容易に想像できる。また、カナミ油症を含む食中毒問題をうやむやにしようとする体制にも問題があると理解した。	同意する
男性	20	知らなかった	生活の中で何気なく食べているものの中に有害物質が含まれていて、そのせいで一生症状に苦しまなくてはいけないう辛い辛さ、悔しさはとても大きなものだろうと感じた。また、今回の事件では、苦しむのは自分だけでなく、家族も巻き込まれてしまう、巻き込まれてしまうという印象に残った。カナミ油を買い、家族にそれを使った料理を振舞ったことで家族も苦しめてしまったという罪悪感や、子どもも障害が残ってしまったという罪悪感、辛さはとても大きなものだし、一生背負ひ続けるものだと考えたと恐ろしいと思つた。	同意する
女性	20	知らなかった	実際に被害にあった方の話を聞いて、国や研究機関に被害を認めて貰えない人が沢山いるのだと分かった。OECDやOCDEの裏面が異様に高いことについて、へその緒に農業をかけたのではないかと回答が帰ってきたことが衝撃であった。1番苦しいのは被害者の方なのに、その被害の現状を認めずにより苦しめてしまうようなことが起きていることがショックであった。また、悪いものとわかっていけば買わない、分らないから被害に遭うという言葉が印象的であった。今自分の周りに住んでいる悪いものとはどう対処したらだろうか。当たり前のことではあるが、分からないから被害が起きる。自分の身にいつ起きてもおかしくないということを実感した。	同意する
男性	20	知らなかった	食品による健康被害はすぐに対応され、被害者は補償されるものだと思っていたので、カナミ油症のような事例があるとは思っていなかった。身近な食品による被害は、現代でも起こりうる問題だと思つたので、非常に心に残る作品であつた。	同意する
男性	19	知らなかった	食事をしただけで一生その事に悩まされるのは本当に悲惨な事だと感じた。その人本人だけでなく、その人の子供にまでその症状が移ってしまう、また、そのことで差別されるなど食事をしただけなのに、本当に酷いなと思った。これを防ぐにはすぐに食品衛生法で食中毒と判断しておけば防げたかもしれないというのがもっと悔やまれることだと思う。	同意する
女性	19	知らなかった	ただ普通にご飯を食べていただけなのに、人生が大きく変わってしまうのは本当に辛いことだと思つた。また症状があるにも関わらず、カナミ油症と認められない制度には問題があると思った。私は講義でこの映画を見るまでカナミ油症について知らなかったが、より多くの人がこの病気と症状について知ることが、被害者の方を少しでも救うことにつながるかもしれないと思つた。	同意する
男性	19	知らなかった	カナミ油症という公害被害のことをこの映像で初めて知った。化学物質によって引き起こされた健康被害で、母親がかついていたようにともなうことと聞いて、症状が2世にも遺伝してしまうことに驚いた。原因がカナミ油とはっきりしていて、同じような症状を持つ被害者がたくさんいるのに、行政が認定をあまりしないのがには疑問が残った。	同意する
男性	19	知らなかった	カナミ油による影響が、へその緒や精子を介して子どもへも伝わり、非常に多くの人が現在も被害に苦しんでいることに衝撃を受けた。また、保健所による食品衛生法に基づいた対応がなされていないこと、認定者が申請した人の6.2%であつたとを知り、被害者やその家族に十分な補償が与えられていないと感じた。	同意する
男性	21	知らなかった	なぜ食中毒が適用されなかったのかとなつた。被害者がこゝまで広範囲に渡っているのにこのような対応をしているのが理解できなかった。	同意する
女性	34	知らなかった	不正確な気持ちになつた。なぜなら、カナミ油と症状に明らかな因果関係があるにも関わらず、被害者は認定されることなく、訴えを続ける。この因果関係は九州大学の油商研究班以外の学者は認めているにも関わらず、なぜ国とカナミ倉庫には知らないふりをしているのか、被害者の無念を思うと、胸が破けそうになる。きっとカナミ倉庫は政府系の貯蔵をしている関係で、政府から守られているのであろう。自身の国は安全と思つて生きており、またグローバルでも日本の衛生は信頼されている。それなのに内部でこのようなことが起こるのは言語道断である。	同意する
男性	19	知らなかった	カナミ油症は食品衛生法が適応されないため多くの人が被害者認定されずに苦しんでいるという現状を今まで全く知らなかったため今回初めて知り驚いた。	同意する

男性	19	知らなかった	よく公害病の話は聞けるが、カネミ油症事件という同様に悲惨な事件が起こっており、それはあまり認知されていないというのが第一印象だった。通常通りには中毒の検査が行われなかったことや、油を作っていた会社の対応（過去も現在も）は不信感や違和感を覚える内容で、起こったことに対してしっかりと対応を行ってれば、このようなことはならなかったと感じた。	同意する
女性	19	知らなかった	政府がカネミ油症を隠そうとしているように見えて、不信感がつつた。被害者の方にとって、原因を曖昧にされたままである状況は苦しいと思う。カネミ工場は現在でも稼働しているとあったが、今どのような思いがあるのか聞いてみたい。また、なぜ食品衛生法から逸脱した方法で対応したのか説明してほしいと思った。	同意する
男性	19	知らなかった	悪い物質だと知らずに家族にそれを与えてしまったという話を色々な方が話していて、いざ自分も同じように、悪気なく善意で他の人にあげたものに毒があったら、一生誰がきずつてしまうと思ってしまう。そして、そうした事件にあってしまったことはもう取り返しのつかないことですが、それを国が認めないという姿勢には映像を見て大変怒りを感じました。	同意する
男性	19	知らなかった	日常生活でなにげなく利用していた食品によってこうした被害に会うのはとてもやるせない気持ちであった。動画の途中にて、「こんなに悪いもんが入ってるって知っていたら買っていなかった。」と親子で喧嘩したということを開き、なにに当たったと良いのかわからないのはとても辛いのだと思った。また、当人だけでなく2世3世へと影響があることが被害を増大していると思った。また症状によるものだけでなく差別や偏見によっても被害があるのはとても辛いと感じた。	特になし 同意する
男性	19	知らなかった	カネミ油症被害者の方が、なぜ結婚するのかと責められることにに対して、カネミ油症についてよく知ったうえで批判してほしいと言っていたのが印象的だった。世間的には事件が風化してしまっていて中で、当事者の方が抱えている思いに触れることができてよかった。食品衛生法に基づいて食中毒として認定されていれば、このような事態にならなかったかもしれないと思うと、悔いが残った。	同意する
女性	21	知っていた	カネミ油症は水俣病やイタイイタイ病と比較すると教科書にも詳しく書いていない、今の若者にとっては昔のものとして扱われている。そんな中で今回の映画を拝見し、まだ認められていないだけでカネミ油症に苦しめ続けられている人たちが多くいることを初めて知り、食中毒と認めなかった自治体に疑問をいだいた。触れ合う機会もなかったカネミ油症に向き合い、国全体の化学的な原因の病気についての向き合い方について悪い面を学んだ。	同意する
女性	18	知らなかった	カネミ油症のことは聞いたことがなかったし、動画の冒頭部分では昔の話だと思って聞いていたが50年たった今でも苦しんでいる人がいるのだと知った。50年前からこそカネミ油症なのだと診断してもらうには証拠が足りない人もいるだろうし、無念だと思いが亡くなってしまった方もいると思う。当時適切な対応を取ればそのような思いの人が出ることもなかったし、あってはならないと思う。せめて今苦しんでいる人々が適切に診断されることを願う。	同意する
女性	23	知らなかった	カネミ油症被害者の苦しみは、治療法が確立されていないことだけでなく、患者認定すらされないことで世間への認知や十分な補償がされないこともある。それによって周囲から心無いことを言われて傷ついたり、子供の将来に悪影響を及ぼしたりといった被害を被っている方が現在も存在している。私たち日本社会は、一刻も早くカネミ油症の存在や被害者の苦しみや心情を世間に認知し、被害者の救済を進める努力をすべきだと感じた。	胎児期にダイオキシン類に曝露された方の症状が改善されることはあるのか。
女性	19	知らなかった	差別しななければならぬところ、大学が勝手に基準を設けてしまい、その結果認定される人がごくわずかでそれ以外の人はかなり問題だと思った。また、両親のどちらかでも症状があるとそれが子供にも受け継がれてしまい、かなり前の事件であるにもかかわらず私たちの世代にも症状が出る可能性があるということから、被害者食い止めるためにも迅速な対応が必要だと思った。	同意する
男性	19	知らなかった	結婚の時に特に差別が多くなるということがわかった。また、それが女性に多く起こっているような気がした。勿論、男性も病気を子孫に受け継いでしまうということがわかったことで、差別は広がってしまったとは思いう。しかし一方で性別は多少は少なくなったのかなと思った。また何より、医師の発言が一つと患者の心に残り続けるのが印象的だった。何気ない一言一つが患者さんの心にとり、大きな影響を与えてしまうことがわかったので、医師になつたら言葉一つ一つに気を配らなければいけないと思った。	特になし 同意する
男性	20	知っていた	カネミ油症も水俣病も公害として扱われているが、食品衛生法にのっとる食中毒として処理されなかったことには疑問を感じた。国も医師も研究者なども何か隠していることがあってもおかしくないと思う。	公害として扱われるのと食品衛生法に則って扱われることには国からの支援をきめて違いがあるのか気になった。
女性	21	知らなかった	私は今まで、公害として扱われるカネミ油症について知らなかった。約14000人の被害者たちの訴えが、基準に当てはまらないという理由とどいていないことを知覚を受けた。1968年に起きたこの事件の被害者は、年月が経つほどに減少してしまふ。やるせない思いを抱えたままにくなっていく被害者たちが少しでも報われるように、進展を望みたいと思った。	同意する
男性	20	知らなかった	カネミ油症にかかった人は、何も知らずに食べたもののせいで子孫にも影響の残る疾患にかかってしまった。このことと世間から偏見を持たれており、とても辛い思いをしている。医療者は病気の治療法を探すのはもちろんのこと、適切な情報を発信していくことで、そういった偏見から被害者を守ることも重要だと感じた。	同意する
女性	23	知らなかった	ただただ普通に暮らしていた中で食中毒の被害に遭うことや、それにより家族の絆が壊されかねないことにとても恐ろしいと感じた。しかしその中でも、家族で助け合いながら今もまだカネミ油症と戦っている人があることに感動した。	同意する
女性	46	知らなかった	恥ずかしながら、カネミ油症のことを知らなかった。食品衛生法に関らずに研究、行政機関が独自の認定基準を設定したためこのような悲惨な歴史になってしまったとのこと。次世代にも影響する事実と被害者差別は広く知られてくはないけれど、研究者はとくにエビデンスに基づき判断すべきというが、目の前の被害者の救済を最優先すべきである。	同意する
女性	36	知っていた	カネミ油症被害者がほとんど認定されていないことをはじめに知りました。食品衛生法に関り検査を進めなかった理由には、国が被害者認定をしたくなかったと考えるあまりにも酷いと感じました。診断基準を食品衛生法に合わせるべきだと感じました。また、何も知らずに油を購入して、大切な家族の為に料理を作った方の気持ちは、どれほど辛かったのか考えると胸が痛いです。	カネミ油症については、知っていましたが、国から認定されていない方々がここまで多いとは知りませんでした。
男性	19	知らなかった	一般的に家庭で使われていた油によって何世代も続く疾患が生じていたことが非常に印象に残った。終盤で矢口さんの言うように、「愛情を込めた料理をならましているつもりで、家族に毒を与えてつづけていた」という言葉に心にのこり、カネミ油症患者の苦しみや辛さの重さを感じました。	同意する
男性	20	知らなかった	売っているものに毒性があったことに衝撃を受けた。被害者の方は避けようがなく、今まで油症で身体的な苦しみだけでなく、さらに差別などで精神的な苦しみも考えたと胸が痛くなった。	特になし。 同意する
男性	20	知らなかった	今回の動画内に出てきたカネミ油のように、その毒性が十分に知られていないままに製品が販売されることには強い恐怖感を感じた。被害者の方が、「知っていなければ買わなかった。」と涙ながらに訴える場面には、科学者の責任の大きさも考えさせられた。	知識のない私でもわかりやすかったです。
男性	32	知っていた	いつも通りの生活をしており、そのなかで家族を思い食事を用意していただけでも関わらず重篤な病にかかってしまうことの恐ろしさも、行政や国の冷たさを感じてはよくよく気づいていく。被害者の方の苦しみや辛さ、子ども孫々まで影響が絶えず、それは身体的な問題のみならず、家族のなかでのわだかまりや周囲からの差別偏見にも通じる一方で救済が一切ないという絶望的な状況は想像を絶する辛さである。国が被害者救済に真摯に取り組まない理由が分からない。	被害者のみならず各方面の意見を取り上げていたことでカネミ油症の全体像と問題点を理解しやすかった。
男性	20	知らなかった	正直なところ、自分にもこれから起こり得るという点でとても怖いと感じた。また、自分の知らないところでそうした事件が起こっていたことに関して、あれだけ大きな事件が世間にはあまり伝わっていないということが少し悲しいなと感じた。	同意する
男性	19	知らなかった	食品の影響で症状が出るといふほど臨床に分かっているのに、認定されず国からの支援を受けられない人達がいるというのを知らなかつたので驚いた。このような問題があるとは思ってもいなかった。被害者の方たちは症状が続き、自分達の子供にも症状が出ているのにも関わらず、支援してもらえないというのは無念だと思った。多くの人が知ってもらえるといいと思う。	同意する
女性	19	知らなかった	この映画を見てカネミ油症事件のことを初めて知った。日常の何気ない食事の場で食べた物が毒性でその後の人生に大きな影響を与えていくの事に思ひがたを感じた。被害者の方の言葉にもあったように、誰も購入だとかわかって無理に食べたし食べたわけではない。被害者の方何とも知らないまま被害を受けることになったにも関わらず、政府が適切な対応をとっていないことに納得できなかった。被害者の方はカネミ油症による症状に苦しむだけでなく、差別や偏見によって精神的にも大きな傷を負っているだろう。自分にも起こり得る出来事であるからこそ政府や大学の対応方法には疑問が残る。	同意する
男性	24	知らなかった	男性の精子からもカネミ油症の影響が出るというのが最も印象に残った。カナミ油症が出る原因は化学物質によるエビデンスが不足しているのを感じた。	同意する
男性	21	知らなかった	何か悪いことをしたわけでもないにもかかわらずいくつもの症状に悩まされていた人々、かつ自分だけが被害がおさまらなかった親の心情にも考えを遣らせば、言葉にできないほどの辛さを感じたのだろうということが容易に想像されて、こちらも、どうしようもなく悲しくなりました。	同意する
男性	20	知らなかった	カネミ油症という病気を知らなかったことが恥ずかしく思うような時間だった。自分は九州出身で、約20年間住んでいたのにカネミ油症のことを知らなかったので、全国的に見て知らない人が大半であるように思う。50年過ぎた今でも映画にあるような活動が続けるには、相当な労力が必要だと突かれ、それだけこの病気のことを知らせることが大きなことだと感じた。	同意する
男性	29	知らなかった	全く非がない、幸せな日々を暮らしていた人々が、ある日突如として、自身や子や孫の代に至るまでの健康被害を受けてしまっている。また健康被害だけでなく、理解のない人々から結婚を促す偏見や差別を受けている。彼（彼女）らは適切な機関から適切な補償や対応を受ける権利があるはずであるが、それが叶っていない。カネミ油症の被害者認定を受けている人の割合の少なさがそれを物語っているだろう。それどころか、この一件に関する人々が増えるたびに、偏見が広がっていくような気がした。	同意する
女性	19	知らなかった	知らず知らずのうちに、被害者にはほしくないと言った言葉がすくなく重く感じた。どうすればよかったのかと考えても、被害者からすればどうしようもなかった、と言うしかない状況が、もどかしくてつらいことなのだろうと感じた。何世代にも渡って繰り返される被害がカネミ油症から逃れられない一つの理由なのかなと思った。自分にも起こることかもしれないと考えて、真摯に受け止めた。	同意する
男性	19	知らなかった	カネミ油症被害者の方々の痛みや苦しみは計り知れないものであるだろうと感じた。症状そのものの苦しみに加えて、差別や偏見などで周囲からも排除されることは、自分だとしたらとても辛いことだし、理不尽に食中毒の被害を受けた苦しみをさらに受けなければ良いものかわからないという複雑な思いが胸を痛かった。	同意する
女性	19	知っていた	悪い赤やんこのことは知っていたが、他のことはほとんど知らなかった。特に、食品衛生法から逸脱した対処をされていたということで、被害拡大を防ぐことができたというところに驚いた。それにも関わらず、いまだに被害者認定さえされていない方が多くいるということで、国は何を考えているのだろうか。昔の問題だと思っていたが、今なお続いている問題であるということも驚かされた。	同意する
男性	18	知らなかった	カネミ油症事件という名前が聞いたことがあったけれど、このように次世代につながるような深刻な事件だということとはほとんど知らなかった。偏見や差別に苦しんでいる人が今もあり、終わっていない事件だと感じた。国や自治体、調査・研究等で関わった機関が、法に従い適切に対処していればこのような被害が大きくなることはなかった可能性があるというところが衝撃的だった。	同意する
女性	21	知らなかった	母親は家族のために自分を犠牲にしてそれを見守る必要の責任を感じ、いまだに辛い思いをしてるのだと分り心を打たれました。国の支援なしに自らの力だけで症状と戦った治療を続けたりすることの苦しみや、世間からなにかしらされそうになっている現実を思い知らされました。	同意する
男性	18	知らなかった	私はカネミ油症のことを知らなかったが、このような悲惨な食中毒事件について知り驚いた。また、事件の後の行政や病院の対応にも問題があり、今後適切な対応を取るべきだと思った。	同意する

女性	18	知らなかった	カネミ油症について初めて知った。カネミ油症が問題になった当時、食品衛生法が適用され、食中毒としての処置が取られていれば、このような問題はなかったのに、どうして政府は処置を取らなかったのかと疑問に思った。しかし、現在その疑念について、調べて、カネミ油症事件の事実が無くなる訳では無いと考える。また同じようなことが起こり、被害者を出さないように、国民はこのような事件があったことをしっかり知っておくこと、政府は直ぐに食品衛生法に則った処置をとること大事だと思う。 被害者本人たちは何も悪くないのに、差別や偏見を受けているという事実がとても心苦しかった。		同意する
男性	18	知らなかった	今までカネミ油症について知らなかったが、その被害は甚大であることを知り驚いた。また水俣病のように国が法に基き取らずにカネミ症認定をあまり行わず、被害者の救済ができていない現状は早く変える必要があると感じた。このカネミ症の影響は何世代にも及ぶ、はやく対処しないと大きな悪影響があると感じた。		同意する
男性	19	知らなかった	世間のカネミ油症の理解がまだまだ足りていないと感じた。		同意する
男性	19	知らなかった	今までカネミ油症について聞いたことはありませんでした。企業や制度の問題により、被害者が救済されない事例があると理解できました。被害者に認定されないことで被害が有期限にされる、まるで何も無かったかのように振舞っているのが非常に悲憤であると感じました。原因が明らかにならないと感じることで認定されないのは新型コロナウイルスのときも同様に感じ、政府の対応の速さを実感しました。		同意する
男性	19	知らなかった	他の食中毒事件とは違ふカネミ油症事件の異質さを知った。その他の食中毒事件にも通じることが、無関係の一般人たちが汚染物質を食べたという理由だけで心身ともに苦しむのはおかしすぎる。政府、行政、企業の毅然とした対応が求められることを強く感じる。		同意する
男性	20	知らなかった	カネミ油症という病気は、カネミ油が原因となっただけでなく、行政の対応の不手際というものも原因となっているのだと考えた。	カネミ油症患者のありのままの声を聞けるドキュメンタリーとして、非常に高い完成度となっていた。	同意する
男性	18	知らなかった	被害者2世の方が同じ症状が出ていても認められていないことだけでなく、カネミ油を直接摂取して症状が出ているにも関わらず、被害者として認められていない人がいることに驚いた。時間が経って記憶から消えていってしまい被害者の方も亡くなる人が多くなっているだろう。徹底的に追求する必要があると思う。		同意する
男性	19	知らなかった	今まで学校で国語科で食中毒や水俣病といった様々な公害病について学んできたがまだ世の中の的にも知られてなく、かつ、多くの人が苦しんでいる公害病があることを初めて知った。この映像を見てもっと国の保障が行き届くべき病気であると強く感じた。		同意する
女性	19	知らなかった	油は基本的なほとんどの人も取るものだから、そうした油が原因で病気にかかるのは非常に怖く感じた。また、食中毒の原因がほぼ確定しているにも関わらず、食品衛生法に従わない企業連を知ら、行政や企業が必ずしも適切な対応をしてくれていないことを知り、怖くなった。私自身も他人事ではなく、自分が食べ食材が食中毒の原因になる可能性が十分にあることを理解する必要があると感じた。		同意する
女性	20	知らなかった	カネミ油症についてどこかで名前を聞いたことはあるような気がするが、詳しいことは何も知らなかったので、50年以上前に起きた事件でも苦しんでいる人が大勢いることを知って衝撃を受けた。今も認定されない方たちが少しでも早く救済措置を受けられるようになったら良いと感じた。		同意する
男性	20	知っていた	カネミ油症について知らなかったが、食中毒として国から認められずに苦しい思いをしている家族の方々がいると思うと心が痛んだ。また、カネミ油によって自分の産んだ子供が差別や偏見に苦しむ、また長い間症状に苦しむというのはとても辛いことだと感じられた。更に、病気による身体的な差別は、体の不調に苦しむ要素が多いのは良くないと感じた。	カネミ油のことを呼びかける人たちの思い	同意する
女性	26	知らなかった	市販されているカネミ油に毒物が入っていると知らずに購入し、家族や子供にまで被害に遭わされてしまった妻や母親の苦しみを考えたと胸が締め付けられた。被害者には何の罪もなく、その怒りや苦しみをぶつけることもできずにいると思う。そんな中で、食中毒事件として認定されない現状があまりにも悔しいと感じた。		同意する
男性	21	知らなかった	診療でなるべく早くにこのような公害に気づくために、危険化学物質や公衆衛生に対する理解を深めたいと感じた。	カネミ油症は発症者から第3世代までも影響はあるのか	同意する
女性	19	知らなかった	「危険なものが入っていたなんて知っていたら買わなかった」と被害者の方が涙ながらに語っていたのが印象に残っている。本当にその通りだと思った。何気なくいつものように食事をとっていただけの被害を受け、その2世の子供達に被害が及び、差別や偏見に苦しんでいる人たちがいることを初めて知った。		同意する
男性	19	知らなかった	こんなに被害者の方がいっぱいやって、語り部や講演会などで声をあげているのにも関わらず、カネミ症の名前すら知らなかったのが、恥ずかしいと思った。食品衛生法に則った対応がされていれどうなっていたかというのを深く考えさせられた。	もっと周知させてほしい。	同意する
男性	19	知らなかった	なぜこんなにも重大で広く多くの人が被害に遭われているこの事件が医学科一年生が知らないほどになってしまっているのかと言ったことがとても疑問に思ったし、知らなかった自分を少し恥じるような、そして悔しいような気持ちになりました。そして、一般に有名な四大公害にならんでもいいようなものであるし、今まで行政やカネミの圧に負けてしまっていたところを絶対的に風化させてはいけないし、許してはいけないと感じました。被害者の子供も被害者であるという部分を行政、医療、世間で広く浸透させ、被害者を支える体制がとて必要であると感じました。この動画を胸に刻んで、これからの学習の方進めていこうと思います。動画を作っていた方がとうございました。		同意する
男性	21	知らなかった	自分の知らなかったところで今も被害に苦しんでいる方がいる。今回の映画を見ることがなければ今後知らないままでの可能性がある。被害者の方の存在を知らないままでは、それは非常に恐ろしいことであると思った。被害者多くの方を知ってもらうことで次の被害が生まれないようにすることや被害者の方を助けることに繋がると思う。		同意する
男性	29	知らなかった	このような食中毒事件が起こっていたことは知らなかった。このカネミ油症というのは公害とは違ふのかもかもしれないが、たくさんの被害者が出た食中毒事件なのだろう。また、本人だけでなくその子供にも症状が出るほど影響が大きいのに、あまり後世の話題になっていないというのも不思議であると感じた。自分たちが何気なく購入して口にしたものが被害のあるもので、それにより自分や子供の健康に害が出るというのは恐ろしいものであると感じた。		同意する
男性	18	知らなかった	「ただいつものようにご飯を食べただけで」という言葉がとても印象に残った。患者の人たちは我々のようにご飯を食べただけで被害者になってしまう、差別まで受けなければならなくなってしまう。本人だけでなくその子供にも影響が出てしまい、大きな障害を持って生まれてしまうこともあるということも知った。患者にとってはやるせないことだと思ってしまう。悲しみでも悲しまれたい事だと感じた。また、政府や大学の研究者たちの対応はおかしいと感じた。政府が被害を大きくさせた。許さないために基準を厳しくしてご苦しんでいる人たちが救われないというのはあってはいけないことだと感じた。		同意する
女性	19	知らなかった	自分も今日初めてカネミ油症のことを知っていたかったし知っておくべきだったと思ったが、自分が知らないということがカネミ油症をなかったことにしたいという国の思惑の証であるのかもしれないと思った。普段使うスーパーに売られているものであれば、安心して買ってしまうので、被害者は大変無敵だろうと思った。また、2世が認定されないということもやり切れない思いがあるだろうと想像した。		同意する
男性	19	知らなかった	カネミ油症というのは初めて聞いた。さまざまな人が被害を受け、症状を発症しているのにもかかわらず認定されず補償されないというのはとても不公平なことだろう。特に油は食事でも多く使う。母親(父親かもしれないが)子どもや家族の味方であるという作られた料理が実は毒で、ずっとそれを食べさせ続けてしまっていたというのは、母親としてもとても辛いことだと思った。	カネミ油症について知らない人が多かったと思う。今日初めて知ることができてとてもよかった。多くの人にこのカネミ油症のことについて知ってもらえるようになればいいと思った。	同意する
女性	19	知らなかった	カネミ油症というものの事態、恥ずかしながら知らなかった。食中毒は過去に様々なところで発生しているし、残念ながら現在でも頻発に起きている。発生当初からカネミ油が原因だと認識されていたにも関わらず食品衛生法に基づいて保健所が対応するという「マニュアル」通りの対応は取られなかったようだ。そのかわり、なぜか大学が独自の基準を設けてそれを使っていた。この問題は、食品衛生法で「マニュアル」の対応が取られてしまったこと、さらなる対応方法を明記すれば回避できたかもしれない。しかし、これはイチャグチャのようになってしまいう。現実的ではないかもしれない。だから、この事件を教訓に法律のとおりに対応して混乱を避けよう大切なことを大切だと思ふ		同意する
男性	21	知らなかった	この動画を見てカネミ油症を知り、食品汚染による甚大な健康被害がどれほど深刻なのか実感した。長年にわたる多くの被害者が苦しむ、世代を超えた健康被害が続くことがはこのような化学物質による被害の1つの側面である。化学物質の健康への重要性や、企業と政府の責任を問うだけでなく、被害者の支援の必要性も大層感じた。	最近の食品関係の事件についても知りたかったと思った。	同意する
男性	19	知らなかった	カネミ油症が食中毒として認定されにくく、今も多くの2世の人が苦しんでいるということがわかった。彼らの戦い続ける姿勢に感銘を受けた。		同意する
女性	18	知っていた	被害者の方の心情を痛感に感じられる映画で、とても考えさせられました。カネミ油症について、その内容をほとんど知らなかったのだと気がされました。特に、カネミ油症が食品衛生法にのっとって対処されていなかったことに驚きました。我々はこの出来事の本質を理解するべきだと思います。今後、国はきちんと対応していかなければいけないし、我々もこの出来事を忘れない、繰り返さないことが重要だと思います。		同意する
男性	21	知らなかった	カネミ油症を食中毒として扱わず、被害に遭われた方々の認定が保証されなかったことは不適切だと感じた。カネミ油の会社は政府からの許認可をしていたということから、政府や役人らがらみの問題もあったのではないかと感じてしまった。	PCBとしてではなく、カネミ油問題として扱われているのはなぜか気になった。PCBの実用の前に安全性の確認などが適切に行われていたのか疑問に思った。	同意する
男性	20	知っていた	科学を扱う我々にとって、健康被害はいつか訪れるものだと思うているが、もし自身の身になったとき恐ろしいものかもしれない。カネミ油など食品を通した被害は避けることのできないが、もし曝露したときは映像のように後世に伝え、健康被害が認められるように戦えるようになりたいと思うと同時に、被害がないように企業側と市町村は尽力してほしい。		同意する
女性	18	知らなかった	偏見感や嫌味など深刻な症状を抱えながら生きていく辛さ、国が認めてくれない辛さ、他人から差別や偏見を受けながら生きる辛さなどカネミ油症患者さんの様々な肉体的・精神的苦痛を痛み取ることができた。愛情を込めて作った料理は家族にとって毒であつたと知ったときのやるせないさは想像を絶するものだったと思った。国には適切な対応を講じてほしいと心から強く思う。		同意する
男性	23	知らなかった	映像を見て特に、被害者の会の代表者が「私たちはただ家族で食事を食べただけなんです」という発言がとても印象に残った。化学物質や有害物質による汚染は、カネミ油症のように日常生活しているだけで、いつ誰にだって起こることが如実に現れていると感じた。国や保健所は、このような汚染や有害事件について、特別な状況下で起こることと想定していることが多いと感じるため、このような映像や活動によって、有害事件がいかに身近に起こり得るかを多くの人に実感していただくのはとても重要だと思う。		同意する
男性	21	知らなかった	全々を理解することができなかったのに間違った意見かもしれないが、明確な症状や検査結果があるのにも関わらず、なぜカネミ油による症状だと認定できないのか気がになった。動画でもあったが、真実を随す方向にことが進んでいるのかもしれない。もしそうならば、被害に遭われた患者や家族、子どもの気持ちは想像できないほどの悔しさや何もしることができない無力感を抱いていると思う。ただ、差別や偏見は致し方ないのかなと感じた。まずは情報を開示しなければ、何も進まないと思った。		同意する
女性	20	知らなかった	カネミ油症に苦しめられているのにもかかわらず、認定されない人が多いことを知り、驚いたとともに、政府やカネミ食屋に怒りを覚えた。カネミ油症事件を知らなかったが、これからは関心を持っていきたい。		同意する
男性	19	知らなかった	何と知らずに、ただ仕事をしたただけなのに発症してしまうという理不尽な現実が驚いた。ただでさえ皮膚の疾患や倦怠感などの症状で苦しんでいるのに、特に女性の人は結婚や出産に関する被害を受け、どれほど辛かったら想像もつかない。約14000人も被害を訴えた人がいるのにたったの6.2%しか認定されないという対応の杜撰さも衝撃的だった。		同意する
男性	19	知らなかった	このような事件があったことを私は知らなかった。制作会社だけでなく医師にも問題がありそう。似たような事件が起こらないことを祈る。		同意する
男性	21	知らなかった	映像を見るまではカネミ油症という存在すら知らなかった。カネミ油症の事件は半世紀以上前に発覚したことに関わらず、今現在も苦しんでいる人がいることに驚いた。食品衛生法で対応していれば、多くの人が保障され、苦しい思いをしなかったと思う。		同意する
女性	19	知っていた	被害者の方々は、何の責めもない普通の暮らしをしていた。自分の力の及ばぬところで健康を害される悔しさは計り知れないだろう。そこで国から手厚い補償を与えられればまだ救いはあるが、そもそものだから本当になぜ？と叫びたくなるようなことだろう。国に体制を変えて欲しいのはもちろんだが、そのためにまず何ができるのか、映画からヒントを得ることができた気がする。		同意する
男性	19	知らなかった	カネミ油症という病気があることすら知らなかった。食中毒と認定されないばかりに補償されていないということはおかしいと思う。		同意する
男性	20	知らなかった	自分の知らないところで、こんなに多くの被害者が出ている時間があったと知ってびっくりした。しかも、食品衛生法が適応されなかったせいで多くの人がまだ認定もされず苦しんでると聞いて、国は何か対策をすぐに講じるべきだとなんじんだ。		同意する
女性	40	知っていた	カネミ油症で苦しんでいる患者様の事象について詳しく知らなかったので、症状による苦しみや差別による偏見に苦しんでいる患者様方がいるということ学んだ。医学的には化学物質による疾患の病態解明の研究を発展させたり、社会的に差別を解消する働きかけをすることが重要であると考えた。	現在のカネミ油症による疫学や治療法	同意する

男性	19	知らなかった	カネミ油症をそもそも知らなかったため、このような被害を受けた方がいることそしてその被害に今でも苦しんでいる方がいることには驚いた。また、カネミ油という原因がはっきりとしているにも関わらず、未だにカネミ油症と認定されない方が大勢いることそしてその幅みはなかなか周囲に告白することさえも難しいことであることを知った。特に印象に残っているのは、カネミ油症の語り部として活動する下田順子さんの話である。母親に一人でカネミ油なんかを買ってきたのかと怒ったという話で、母親の毒性があると知っていたらカネミ油なんて買ってこなかったという言葉が印象に残っている。後悔しても後悔しきれないことだと思う。	特にありません。	同意する
男性	20	知っていた	真先に食品衛生法はそんなにいいものなのだろうかとか疑問に思った。食品衛生法に従っていればこんなことにはならなかったという話があったが、そのような神格化はまた別の問題を生むように感じた。本来第三者として調査すべ調査班が被害者を少なく見繕もるような行動を起こしていたのだとしたら問題だと感じた。		同意する
男性	21	知らなかった	カネミ油に毒を混入したことの重大性を理解していないため、認定や補償がされていないと感じ、行政はもっと被害者の声を聞いた方がいいと思った	カネミ油の会社がまだを営業しているが、会社にどのようなことを伝えたいのか教えていただきたいです。	同意する
男性	18	知らなかった	何も知らずにカネミ油を摂取してしまったことで、病気になってしまい、それが自分よりも後の世代にも受け継がれてしまうことは恐ろしいことだと思った。こうした事案は、ついでどこか遠い話のように感じてしまうが、身近なところでいつ起こってもおかしくはないのだと思った。		同意する
女性	19	知らなかった	カネミ油症事件については全く知らなかったが、この映画を見てたくさんの人が今もカネミ油症に悩まされていることが分かった。多くの人が自分の症状の心配をしているのではなく、自分の子供たちに症状が出てしまったこと、出てしまう可能性があることを考えていたり、カネミ油を子供にふるまってしまった親の気持ちを慮っていたりしているのを見て、彼らの助けが必要だと感じた。		同意する
女性	19	知らなかった	この映画を観て、初めてカネミ油症事件のことを知った。被害者やご遺族の方々の、カネミ油症のことを多くの人に知ってほしいという気持ちや患者救済が進んでほしいという切なる思いを感じた。どうして食品衛生法に則って対応が進まなかったのか、私自身も非常に疑問に思った。政府や企業は、カネミ油症のことをきちんと調査し、相応の対応をとるべきだと感じた。		同意する
男性	18	知らなかった	普通の食事をしただけなのに、心身ともに非常に辛い思いをすることになったのを知って、絶対にあってはならないことだと思った。また、子どもにまで影響が出てしまうため、被害者はさらに辛かったと思う。生きるのに必要な食料だからこそ、食品衛生法が厳守されなければならないと感じた。		同意する
男性	20	知らなかった	カネミ油が原因で多くの方が苦しんだ事実を知ることができた。カネミ油を食べた方ももちろん知らないし、その子供などはもっと知らないうちに発症してしまったことが非常に恐ろしいと感じた。法律がうまく機能していればと思った。		同意する
男性	21	知らなかった	私自身この事件を知らなかったので、この事件が今も続きしており、風化させてはならないという意図に感銘を受けました。行政の対応にも問題があり、被害者が少しでも救済されることを願っています。	断片的にしか見れなかったのですが、吸い玉油煙や、父親から子へのpcbの移行という話に触れられて、それが油症とどのような関係にあるのか疑問に残りました。	同意する
男性	21	知らなかった	矢口さんの「愛情を与えていたつもりが毒を与えていた」という言葉にやりきれない気持ちを感じた。		同意する
女性	19	知らなかった	食品衛生法に則らずに、国や行政が都合の良いように認定基準を決めたことについて、非常に疑問や怒りを感じた。専門知識や社会的権力上の者が、自己の利益のために権力を振り回してはいけない。	食品衛生法に則らないことが不利になることの説明が欲しかった。	同意する
女性	18	知らなかった	カネミ油に混入した化学物質によって、ダイオキシン類の血中濃度などの異常が出て被害が出ていたことを初めて知った。その当時に実際にカネミ油を食べた人だけでなく、その人が10年以内に生んだ子供にも影響が出ることはとても怖いと感じた。被害が二世へと引き継がれて拡大していくことは、対処や治療が困難であると感じた。		同意する
女性	19	知らなかった	今回、初めてカネミ油症というものを知った。食品での健康被害があること、公害が発生してしまうことがあることは知識としてはもちろん知っていたが、これまでは被害者の方が周りにいないこともあり、どこか縁遠い存在だと感じていた。しかし、今回のこの映像を見て、その実態を知ることが出来たので医師として知るべき実情を知識として頂けたことが良かったと思う。		同意する
男性	21	知らなかった	水俣病などについては小中学校の教科書に載っていたため知っていたが、カネミ油症については知らなかったため、今回知って驚いた。公害によって自分自身に症状が起こるだけでも非常に辛いと思うが、それによって地域で差別が起きたり、子供にも影響があったりすることも非常に辛いのではないかと感じた。結婚の問題であったり心に深い傷を負っていると思うため、国としてもっとしっかりと対応すべきだと思う。		同意する
男性	21	知らなかった	カネミ油症患者の方々は長年不安の中で暮らしているのだと感じた。そのため、大学や政府、周囲の人がそのことを理解したうえで後者の必要があるのだと感じた。その方々にとっての救済を意識したうえで対応をとっていく必要があるのだと思った。		同意する
男性	22	知らなかった	10年以内に産まれた子は影響が大きいだろう、という先生の言葉が忘れられない、というのが印象的だった。九丈の班が出てきたところで初めは頼もしさを感じたが、そうでもなく、被害者と認められない被害者を生み出してしまっているのだとわかった。		同意する
男性	19	知らなかった	カネミ油症がかつて大きく日本を揺るがし、広く被害を出したこと、そして次の世代にも影響がわたり、偏見などの食中毒とは違う被害すら受けていることや、今なお苦しんでいる方々がいることを知った。真つ当な評価をされて欲しいと思う。		同意する
女性	20	知らなかった	油症が起きた当時に食品衛生法で対応されなかったということが、こんなに多くの人に影響を及ぼしているのだということを知った。さらに、その影響が二世、三世へと続いていることも知った。つらい過去を思い出したくないだろうが、カミングアウトをせざるを得ない当時の人の心中を思うと、胸が痛む。お母さんの息子の墓前に報告したいという言葉を聞いて、国はきちんと責任を果たすべきだと思うし、それをしていない国に対して憤りを感じる。今後、油症の認知度が向上し、差別なしに適切な保障が受けられるようになることを願っている。		同意する
女性	18	知っていた	カネミ油を食べたことによる偏見や差別があり、それによって人生が狂わされた人も多くいるのだろう。「愛を持って作ったと思った料理が、本当は毒であったら」と言っている人がいたが、そのようなことを経験したら、とてつもない罪悪感を感じるだろうと思った。誰にでも起こりうることで、これが食中毒と認定されないのは許せないことだ。		同意する
男性	21	知らなかった	行政の人たちがカネミ油の毒の重大性を理解していないと感じ、被害者の人の声をもっと聴くべきだと思った。	カネミ油症のような被害が今後出ないようにするためにどのようなことに気をつけるべきか教えて欲しいです。	同意する